



## 会長挨拶

木蓮会会長 門屋 孝志

2018年の今年の漢字は「災」となりました。この一年は災害の多い年だったことを思い返すと選ばれるのは当然のことと思われます。中四国の会員の皆様も豪雨災害で被災された方もいらっしゃるかと思います。以前のような生活に戻れない方もまだ多いと耳にする機会も多く、被災者の皆様には心労絶えないことと胸が痛みます。

6月の大阪北部地震に始まり、西日本豪雨、台風21号による被害や北海道胆振東部地震と、毎月のように災害の報道を耳にしました。今は復興への取り組みについての報道が主流となっていますが、地域性により、耳にするのは西日本豪雨に関するものばかりです。つい、北海道や大阪北部地震のことを失念してしまいます。意図的な報道がなされた場合、関心の方向付けが可能であると改めて感じ、多角的に情報を得ることが大事なのだと、今さらながら考えさせられました。

医療業界は、政府の策定する診療報酬に大きな影響を受けています。よりよい医療を実現するために、政治への関心を持つことは大事だと思います。世界的には非寛容な世の中になりつつありますが、医療職である私たちは、常に患者の利益と従事者の利益が両立すること、すなわち、患者と従事者のWin-Winを目指して、日々の仕事を行っている事と思います。毎日の生活が、寛容と思いやりの気持ちを大事にして過ごしていけることを切に願います。

情報発信源として有効であることを踏まえ、タイムリーな更新を目指していますので、<http://mokuren.main.jp>や、Facebookの「木蓮会」のページを訪れていただけると幸いです。

今年も同窓会総会と「ホームカミングデー」の同日開催となります。会場を大学とし、日中の開催です。ボリュームたっぷりの気軽な食事で例年好評を頂いている懇親会を、幅広い交流を築く場として、また、久しくあってない友人の再会の場として、是非多くの方々のご参加をお願いいたします。また、「ホームカミングデー」もよろしくをお願いいたします。

平成30年12月



## 理事報告

木蓮会理事 仲田 琴美

はじめまして。この度木蓮会理事となりました仲田と申します。大学の3期生として卒業し、早いもので社会人10年目に差し掛かりました。ご縁あって、本学大学院に進学し、昨年4月からは特定教員として働かせて頂いています。大学在学中の私は、こんなに医療技術大学にお世話になるとは思ってもおりませんでした。

恥ずかしながら、卒業後、私は木蓮会総会・懇親会に参加したことが無かったのですが、昨年参加してみて驚きました。学校を利用してのオープンな環境で、様々な屋台があり、今まで参加していなかったことが勿体ないと感じました。懇親会に参加したことのない木蓮会会員の皆様、友人との再会の場として是非ご参加ください。今まで参加していなかった者として、お勧めいたします。

微力ながら、理事として邁進してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。総会・懇親会にて、皆様にお会いできるのを楽しみにしています。



# 特別会員挨拶



## 木蓮会会員の皆様へ

理事長・学長 橋本 公二

小生が本学の理事長・学長として再任されてから、はや、1年が過ぎ、残る任期も1年となりました。5年前に新任の理事長・学長として入学式に臨み満開の桜の前で新入生達と記念写真を撮ったことが昨日のように思い出されます。残り少ない期間ですが、本学の発展に一層尽力したいと考えております。改めまして、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、1昨年より、新入生全員をランチに招待し、直接対話を始めております。瑞々しい感性に満ちた18歳の若者達と食事を共にし、彼らに最高の教育環境を作ろうと努力することは、学長冥利に尽きるといっても過言ではありません。「この世に二心なく残せるのは人材のみ」という言葉の重みを感じる今日この頃です。

昨今、グローバル化に対応する人材を養成することの重要性が大学においても強調されています。この方針に基づき、平成30年6月、中西学部長、田中事務局長らとともに、台湾の高尾医学大学を訪問し、Ching-Kuan Liu学長と学生交流協定を締結いたしました。高尾医学大学は台湾最高峰の私立医学大学であり、本学にとって有意義な事業であると考えています。毎年、3月に、3年生を主体に、看護学科2名、臨床検査学科4名を派遣する予定です。

現在、本学の新たな名称EPUを提唱しています。これはEhime Prefectural Universityの頭文字をとったものです。このような略称を提唱した理由は、上記のグローバル化に対応したもので、例えば高尾医学大学はKaohsiung Medical Universityの頭文字をとり、KMUと呼ばれています。医技大祭もEPU Festivalと名称を変えています。EPUの愛称が、愛媛県民の皆様にも広く浸透するよう、改めて、同窓生の皆様のご協力をお願いする次第です。

平成29年度に、本学の教育研究、国際連携、社会貢献活動等の充実に使用することを目的とした基金を設立いたしました。この基金は上記の高尾医学大学との学生交流事業の支援にも使われています。正式な名称は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学基金ですが、愛称としてEPU愛顔（えがお）基金と呼ぶことにいたしました。本学の同窓生、関係者各位からの寄付を主体に運営しております。木蓮会の皆様方の一層のご支援をお願いする次第です。

本学の卒業生の皆様方も、医療の第一線で、日夜頑張っておられることと思いますが、チャンスがありましたらホームカミングデーなどに本学をご訪問いただき、変貌しつつある母校をご覧いただければと希望する次第です。



## 木蓮会の皆様、こんにちは。

学部長 中西 純子

1年ぶりですね。皆さんはどんな1年を過ごしていたでしょうか。

昨年は災害が少ないと言われていた愛媛の地で、まさかの豪雨災害が起き、大学からも大洲や宇和島にボランティアに行きましたが、“災害”を他人ごとではないと実感した出来事でした。今後も南海トラフの懸念もあり、防災・減災に努力することはもちろんですが、起きてしまったときにはこの同窓会のつながりや絆も支援に結び付くことを願います。

さて、平成も終わろうとしているなか、今年も旅立ちと別れの季節を迎え、この度は6人の先生方が退職されます。定年を迎えられた米持英俊先生、野島一雄先生、青木光子先生、新天地でさらなるご活躍が期待される相原ひろみ先生、小嶋理恵子先生、山本美由紀先生です。

なかでも、野島先生、青木先生は短期大学の開設当時から今日まで、30年間にわたって皆さんとともに歩み、今日まで大学を支えてくださいました。いつも皆さんの近くにごってくださいましたね。思い出を共有する皆さんも多いことでしょう。私自身も短期大学開設当時、一緒に着任し、たいへんお世話になってきましたので寂しい限りです。

米持先生は長い大学教員歴のうち本学では6年間勤務してくださいました。本学臨床検査学科の学生はもとより、先生の薫陶を受けた学生たちが今や全国で活躍していることでしょう。

相原先生は皆さんの同級生・先輩・後輩であり、教員として大学に戻ってからは木蓮会との橋渡しも長きにわたって務めてくださいました。頼りになる卒業生であり教員仲間でした。さらなる飛躍を期待したいと思います。

小嶋先生、山本先生は、昼夜を問わないハードな日々を過ごす助産学専攻科生と苦楽を共にし、しっかりと支えてくださっていました。穏やかなお二人の人柄に救われた学生は多かったことでしょう。

退職される先生方には、この場を借りて、皆さんの分も含め改めて感謝を申し上げます。そして、卒業生・修了生の皆さんにとっては、大学を訪ねてももう先生方に会えないのは残念なことと思いますが、共有している数々の思い出は消えるものではありませんね。愛媛県立医療技術短期大学・大学に入学したからこそこの出会いをこれからも大切にしたいと思っております。





## 木蓮会会員の皆様へ

臨床検査学科 山田 武司

会員の皆様はじめまして。新任教員として平成30年4月1日に着任し、医技大で免疫学および臨床免疫学、輸血移植学を担当しています。前任の愛媛大学医学部では免疫学と感染防御学の授業を担当していました。愛媛大学では1学年約120名の学生に対して授業を行っていましたが、こちらの臨床検査学科では約25名と学生数が非常に少なく、個人に合わせたよりきめ細かい指導ができ、教育にとっても良い環境だと感じています。生徒数の多い大学では授業に対して学生がとかく受身になりがちですが、本学のような小規模大学でのメリットを活かして、学生には多くの課題や発表の機会を与え、思考力の高い積極的な人材を育成していきたいと考えています。医技大では日頃の授業のほかに卒業研究の指導も担当しています。

私が行っている研究内容についてですが、一貫して感染免疫学を専門としており、感染症に対するT細胞免疫応答の研究を続けて25年が経ちました。最近では、がんに対する免疫応答にも研究の幅を広げ、将来的に臨床応用を目指した効果的な免疫療法の開発に取り組んでいます。卒業研究などを通じて、医技大では多くの学生に研究のすばらしさをもっと知ってもらい、臨床分野だけでなく研究分野にも興味をもってもらう工夫を心がけています。

愛媛県は6年目になりますが、これまで住んだことのある大阪や東京（途中アメリカ）に比べ、自然豊かで人混みも少なくとても過ごしやすい場所だと感じています。非常にのどかな環境ですが、医技大が愛媛で輝けるよう活発に教育や研究活動に取り組んでいきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 木蓮会会員の皆様へ

看護学科 田中 昭子

はじめまして！

平成29年4月に着任し2年目となりました。どうぞよろしくお願いいたします。

しばらく愛媛を離れて生活しておりましたので、愛媛に帰ってきて改めて愛媛の良さを実感しています。愛媛の良いところ、まず1つ目は瀬戸内海の景色です。青い海に緑の島が幾つも浮かぶ多島美といわれる景色は、本当に美しいと思います。海が穏やかでキラキラと輝く水面を眺めていると、優しい気持ちになります。そんな景色が楽しめるしまなみ海道のサイクリングは絶対お勧めです。2つ目は、柑橘の種類が多いことです。紅マドンナ、せとか、はれひめ等、たくさんの品種が開発されていることに驚きました。しかも高価な品種でも産直市で比較的手ごろな値段で手に入るの、毎日でも食べることができます。果物好きの私には天国です。3つ目は、魚介類の種類の多さです。特に白身魚の種類が豊富だと思います。東日本ではマグロが高級魚ですが、私はマグロより鯛のような白身の方がおいしいと思います。身がコリコリした新鮮な魚が食べられるのも瀬戸内海の恵みですね。4つ目は、温泉です。道後温泉はもちろんお勧めしたい温泉の第1位ですが、他にもスーパー銭湯のような温泉がたくさんあり、気軽に温泉に入れるのがうれしいです。その他、麦味噌のお味噌汁、いりこだしうどん等、懐かしい味にもほっこりしています。

さて、平成31年は平成最後の年ですね。もう少しで平成が終わるかと思うと、寂しい様な、うれしい様な……。また、2020年には東京オリンピック、2025年には大阪万博が開催予定で、これをきっかけに技術開発が進み、社会が飛躍的に変わるかもしれませんね。そう思うと、これからが楽しみでもあります。人生100年時代ですから、社会の変化を楽しみながら後半生を送りたいと思う今日この頃です。





# 卒業生近況報告



京都府立医科大学病院 助産師 辻 麻美子

去年3月に助産学専攻科を修了してもうすぐ1年になろうとしています。就職した病院は地域周産期に指定されていて、とてもハイリスクな母児を扱っています。母児の状態を最優先に考えると正常産でのお産は難しく、生まれてきた子の半分以上はNICU、PICUへ入院となり、母児分離状態となります。そうした状況での母体、胎児へのケアは日々学ぶことがいっぱいです。先輩方の患者さんへの関わり方、ケアを見て、私も話を聞いたり保健指導を行っています。まだまだ未熟な私ですが、日々関わっている患者さんに名前を覚えて貰ったり、退院した方が赤ちゃんを連れて自分に会いに来てくださることもあり、そんな時は、自分なりにその方にちゃんと関わっていたのかなと日々の頑張る力に繋がっています。助産専攻のときに頑張った保健指導は就職してもすごく役立っています。また、私はハイリスクな病院で実習させて頂いていたのでいまの病院でもその時に学んだことを活かすこともでき、助産専攻科でたくさんの経験ができて本当に良かったと思っています。毎日の仕事はすごく大変ですが、休みの日には助産専攻科と一緒に学んだ仲間と会い、お互いのことを話したり励ましあったりして、ここでできた本当に大切な存在だと感じています。これからもたくさんの経験をして、母児の最善を考えて行動できる助産師になりたいと思います。



看護師 中城 美沙希

愛媛県立中央病院に就職して1年になろうとしています。現在、私は呼吸器内科と循環器内科の混合病棟で働いています。肺癌やCOPD、心不全など慢性期疾患を抱えた患者さんが多いため、入院後早期から退院を見据えて医師や地域連携のスタッフと連携を図りながら退院支援を行っていくことが必要です。日々担当する患者さんの人数が増え、重症度も上がり、時間管理や優先順位を考えながら正確に業務を行うことが課題となっています。しかし、業務をこなすことだけに集中するのではなく、日々の関わりの中で患者さんとのコミュニケーションを大切に、何気ない会話の中からその人の性格や今後の目標などを読み取り、個別性のある看護を提供できるように意識しています。

まだまだ知識や技術は乏しく、分からないことや上手くいかないことが多くて大変ですが、同期と励まし合い、日々頑張っています。これからも患者さん1人1人との関わりを大切にしながら、学びを重ね、看護師として成長していきたいです。

## がんばるけん西予

保健師 権田 恭子

みなさん、お元気ですか。今年は何といっても豪雨災害。この4月、海辺に面した三瓶に転動し、いつ起こるかかわからない南海トラフ、津波にどう対処すべきかと考えていた矢先のことでした。

今回の災害は、ダムの上流からくる野村を中心に、土砂災害から危険区域となり、今も不自由な避難生活を続けられている方、生活の基盤となるみかん山を一気に土砂災害にあった方等、被害も様々です。発生から5日目手探りでむかった家庭訪問。みんなががれきの撤去で忙しい中、「暑い中来てくれてありがとう。元気で、保健師の〇〇さんに伝えといて。」と逆に励まされた一言。ただただ、これまでの諸先輩方の地道な活動を思わずにはいられない瞬間でした。保健師になって二十八年余り過ぎようとしています。人とのつながりの大切さを感じる日々です。住民に助けられ、励まされ頑張ってます。



臨床検査技師 高橋 辰典

入社して約8ヶ月経ち、社会人としての生活にも少し慣れてきました。仕事の方では、何もできなかった入社当時に比べて自分ができることが増え、少しずつやりがいを実感しつつあります。しかしまだまだ慣れないこと・できないことが多く、先輩方にお世話をかけてばかりです。

私は生化学検査に配属されており、今は近々行う試薬の検討の準備をしています。大学時代に行った卒業研究や、医療技術大学の先生方に教えてもらったことが活かせると思い、始める前から楽しみにしているところです。また、二級試験や学会発表などにも挑戦させていただく予定であり、検査技師として成長する機会をたくさん与えていただける恵まれた職場環境だと感じています。いずれ壁にぶつかることもきっとあると思いますが、そのときは優しい先輩方はもちろんのこと、初心に戻って苦楽をともにした大学時代の友人や先生方にも頼っていきたいと思います。



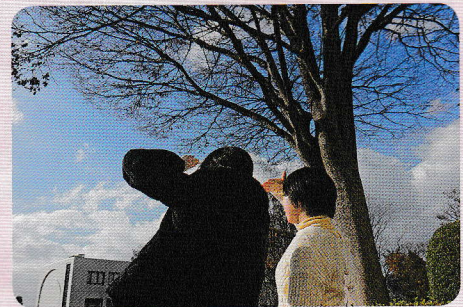
# 在校生近況報告

## 看護学科 大西 祐香

愛媛県立医療技術大学に入学して2年が経とうとしています。1年生という後輩を持ち、学内の生活の中で他学年をまとめるリーダーとしての役割を多くこなしながら、実りのある1年を過ごしてきました。

学業では、一通りの看護知識を学習し、今夏には初めての病院実習を行いました。実習を通してあらためて、学んできた知識を実践で使うことの難しさや患者の個性に合わせた看護を行うことの難しさを実感しました。また、患者の本当に望むことを優先するか看護師側が一番望むケアをするかという、看護的な倫理の場面の難しさにも直面しました。

それらについて私たちは、自分自身だけで答えを出すのではなく、担当看護師や本学の先生方、仲間たち全員で意見を出し合い、よりよい看護を提供できるように努めました。これらの経験を通して、患者の個性に合わせた看護ケアができる看護師を目指して今後の実習や勉学に日々励んでいきたいと思っています。



## 臨床学科 浅井 理佐

愛媛県立医療技術大学に入学して、早くも一年が経とうとしています。入学当初は、初めてのことばかりで戸惑うことも多かったように思います。今では、大学の先生や先輩方、家族や友人に支えてもらいながら充実した毎日を過ごせています。

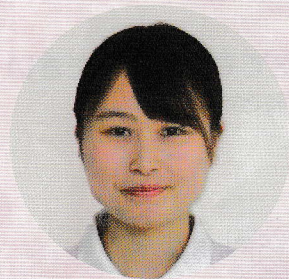
当大学の大きな特色である、二つの学科を交えた授業では、お互いに協力したり、刺激し合ったりしていることを日々実感しています。様々な価値観や個性があることを受け入れ、認めることの大切さも知ることができました。

また、実習も徐々に増え、臨床検査技師としての専門知識を学ぶ機会が増えてきました。班員と意見を出し合い、考えを共有しながら理解に努めています。今まで以上に臨床検査技師になりたいという気持ちが芽生えてきました。

これからの大学生活においても、日々の学習や生活の中でよりよい自分に成長するための努力をし続け、高度な技術が求められる医療の世界で活躍することを目指します。



## 助産学専攻科 荒川 優花



助産学専攻科に入学し、早くも修了が近づいてきました。入学後は、授業や課題に追われる日々で、正直心が折れそうになったこともありましたが、しかし、少人数のクラスということもあり、みんなで助け合いながら乗り越えることが出来ました。授業も、座学だけではなく、グループで考えたり実際に演習をすることで学びを深めることが出来ました。実習では、10例の分娩介助をさせて頂きましたが、先生や指導して下さったスタッフの方々、協力して下さった産婦さんやそのご家族のおかげで、多くの経験と学びを得ることが出来ました。感謝の気持ちでいっぱいです。

実習をしていく中で、まだまだ自分に足りない部分や課題を見つけることが出来たので、就職後、授業や実習での経験や学びを生かし、更に実践能力を高めることが出来るよう努力したいと思っています。そして、産婦さんたちに信頼され、安心を与えられる助産師を目指したいと思っています。





# 助産支部活動報告

愛媛県立医療技術大学 助産学専攻科教員 今村 朋子

## 「助産支部の修了記念品 東北から届く毛糸の乳房モデル『おっぴ』」

3年ほど前から、助産支部の修了記念品がトラウベから毛糸の乳房モデル『おっぴ』に変更になりました。実は、時代の流れの中で、トラウベの製造がだんだんと縮小されてしまい、お値段が高騰！以前の倍近い値段になってしまいました。…という本音のところはここまでにして、実際は「単に高くは買えないから…」ではなくて、「修了生が普段の業務の中でも使うことができ、しかも助産師らしい記念品って!？」と必死に考えたところ、毛糸のおっぴモデルにたどり着きました。

赤ちゃんとお母さんをつなぐ母乳育児のスタートを支援することは、助産師にとって非常に重要な役割となっています。学生時代、何度も学習したラッチオン※の大切さは、助産師なら身に染みていることでしょう。

実は、このモデルは東日本大震災の被災高齢者の生きがいと仕事づくりを目的に、子育て中のママや助産師有志のプロジェクトとして手作りされているもので、宮城県の気仙沼で編まれ、石巻の女性によってタグ付けがされているそうです。宮城では、ひい婆様や、ひい爺様のことを親しみを込めて「おっぴさま」と呼ぶそうです。

震災時、母乳は何より便利な非常食で、赤ちゃんの命をつなぐ、かけがえないものです。普段は低い母乳率が、震災時には、ほぼ100%になったという話を聞きました。安全な水もミルクもすぐに手に入らない災害時でも、いのちをつなぐ母の強さ、人のからだのしくみの見事さは、本当にはかりきれないものがあります。

このモデルは、普通の乳房モデルと違ってカラフルで、とてもかわいいおっぴです。修了生の皆さん、ぜひ、これを使って母乳育児の楽しさを伝えていってください！

(※ラッチオン：乳頭に赤ちゃんがうまく吸い付くこと)



## 県内に在住する **本学修了生** の潜在助産師さん登録制度を始めました！

現在、本学では「助産師の力を活用した子育て支援」を実現するための調査プロジェクトを立ち上げております。まずは人材の発掘を目指して、同窓会(木蓮会)のご協力のもと、潜在助産師の方々の状況を把握していくことになりました。この制度を活用して、将来的には、同窓生の助産師仲間の皆様への情報発信やキャリア支援などのお役にたてれば…と考えております。

本学で共に助産師になった同窓生の皆様、あなたの経験が潜在するのはもったいない！いつか、その力を母子のために活かせる日に向けて、ぜひ、登録制度へのご協力をお願いいたします。

※この登録制度は、就職斡旋ではありませんので、復職支援希望の方はナースバンクにもご登録ください

### ●こんな人を探しています

\* 潜在助産師とは・・・ **助産師の資格を有していて、  
「現在、就業していない人」  
「病院などで看護師として働いている人」** のことをいいます。

\* 本学の修了生とは・・・本学の以下の課程を修了した皆様を対象です。  
短期大学助産学専攻、大学学部助産選択、大学助産学専攻科

●県内在住の「**本学の助産師教育課程の修了生**」であれば、**どなたでもご登録ください**  
助産師としての勤務経験、就業の意志は問いません。今は県外在住の方でもOKです。

### ●登録のメリット ～お寄せいただいた情報の活用について～

- ・ 助産師の活動、研修、ホームカミングデー、同窓会活動などご案内
- ・ **ニーズ調査** (学習ニーズ、助産師活動のニーズ) により、今後の復職支援に役立てていきたいと思っております。

### ●登録方法 (必ずご本人が登録してください)

「[timamura@epu.ac.jp](mailto:timamura@epu.ac.jp)」にメールして、「**お名前と修了年**」を入力してください。



- ・ ご連絡をいただきましたら、必ずこちらから返信いたしますので、携帯の方は、「epu.ac.jp」からのメールが受信できるように設定をお願いいたします。
- ・ 左のQRコードからアクセスしていただくともメールが簡単に送信できます。
- ・ ご登録いただいた個人情報は、本学の潜在助産師登録プロジェクトのみで使用し、厳密に管理いたします。
- ・ 潜在助産師の方をご存知の場合は、ぜひこの情報をご本人にお伝えください。

《お問い合わせ》愛媛県立医療技術大学 助産学専攻科 専攻科長 中西純子  
〒791-2101愛媛県伊予郡砥部町高尾田543番地 Tel:089-958-2111 mail:timamura@epu.ac.jp (担当 今村)



## 第15回木蓮会総会および懇親会報告

毎年、恒例となっております、「木蓮会総会・懇親会」も、今回で第15回目を開催することができました。年々、遠方の方の出席や子連れの方、多くの学生の参加と、短大時代、大学時代の卒業生が入り交った、賑やかな会を開催することができました。

開催場所を「母校」とすること、また、日中の開催とすることで、学生も、卒業生も、子持ちのママさんも参加しやすい状況であると感じています。食事もケータリング形式が定着しており、普段とは異なった食事に、盛り上がりを見せておりました。木蓮会スタッフもおそろいのシャツを着こなし、なんとなく、気合も入った（普段、気合がないわけではありませんが）時間でした。

「最近、参加していない」「今まで行ったことなかったけど、行ってみようかな」と思われておりましたら、遠慮なく声をかけてみてください。友人同時、先輩後輩での参加も大歓迎です。恩師の先生や、これから同じ現場で働く学生と語らうのも、日々の仕事の息抜きにいいのではないのでしょうか。

小さな～そこそこ大きなお子様をお連れの方も、参加しやすいようにキッズスペースも確保しております。今後も、さらにみなさんが参加しやすい会としていきたいと考えております。

ホームページ (<http://mokuren.main.jp/>) やFacebook (木蓮会) も開き、なるべく多くの皆さんに情報を提供していきたいと思っておりますので、ぜひ、ご覧ください。



## 第16回木蓮会総会および懇親会のご案内 (ホームカミングデーと同日開催です)

下記の日程で開催いたします。

日時：2019年6月22日（土曜日）開催

10:00～ホームカミングデー（大学と共催）

12:30頃～木蓮会の総会および懇親会（木蓮会主催）  
(14:30頃終了予定)

場所：愛媛県立医療技術大学体育館（上履きは各自で用意してください）

電話：089-958-2111

懇親会参加費：500円（ケータリングによるランチビュッフェです。就学前のお子様は無料）



参加申し込みは、下記のQRコードから行えます。申し込み締め切りは6月15日（土）の予定です。詳細は、木蓮会ホームページ (<http://mokuren.main.jp/>) または大学ホームページ (<http://www.epu.ac.jp/>) に順次アップしますので、そちらもご覧ください。

例年は、総会・懇親会への参加・不参加の確認および委任状と住所変更をはがきで行っていましたが、QRコードから参加・不参加、不参加の場合の委任状、住所・勤務先の変更の入力をして下さい。大変お手数ですが、不参加の方も委任状の入力としてアクセスしてください。また、住所変更がある方も、同じく下記のQRコードからアクセスして、必要な入力をお願いいたします。

<https://business.form-mailer.jp/fms/O44dd25499432>





# \*\*\* Welcome! Home Coming Day! \*\*\*

今年で8回目となるHome Coming Dayが、本学で6月23日午前に開催されました。卒業生93名、在校生113名、合わせて206名の参加があり、大きなにぎわいを見せました。同日午後開催された木蓮会の総会・親睦会も相まって、もうすっかり医技大恒例の「卒業生と在校生の交流会・同窓会」イベントとして定着してまいりました！

全体会では、特別講演講師として愛媛県宇和島市（元北宇和郡三間町）出身で認定NPO法人 国際地雷処理・地域復興支援の会理事長を勤める高山良二さんをお招きしました。カンボジアで地雷処理を行いながら、そこで暮らす人達のための安全で平和な地域復興とは何かについて語っていただきました。カンボジアでの地雷処理活動の実際や村民とのふれあい、また高山さんの平和に対する強い思いが伝わり、刺激を受けた人も多かったようです。

その後は、看護師・助産師・保健師・臨床検査技師の分科会に分かれ、各分野で活躍されているゲストスピーカーの方々から、臨床現場でのモットー、研究のきっかけ、大学院で学んだ体験など多彩な内容の話が繰り広げられました。また、卒業生・在校生を交えての茶話会では、他施設や他県の卒業生がお互いの仕事の様子を話し合ったり、在校生が卒業生に、実習や病院・行政の情報について、大学院などへの進路について質問する姿があり、和やかな中にも活発な情報交換がなされていました。卒業生も在校生も、普段聞くことのできない話を聞くことで、視野を広げたり、自分のこれからの活動の参考にしたりと有意義な時間を過ごせた様子でした。

ホームカミングデーは、卒業生にとっても在校生にとっても、有意義な情報をキャッチする場、刺激をもらえる場、憩いの場となっています！みなさんも、ぜひ来てみてください！

♪ 有意義で楽しいひと時を、みんなで過ごしましょう♪

\*\*\* Welcome! Home Coming Day! \*\*\*

## ◆平成29年度会計報告 (2017年4月1日～2018年3月31日)

(単位：円)

歳 入		歳 出	
前年度繰越金	4,621,834	事業費	—
同窓会入会金 (86名分)	1,720,000	会報発行費	14,212
総会参加費	51,000	学生支援	15,000
旅費返金分	9,500	活動助成費	26,657
利息	45	卒業記念	621,500
寄付	6,100	通信費	183,724
		総会運営費	598,686
		事務費	—
		会議費	20,579
		人件費	75,350
		旅費・日当	266,650
		慶弔費	0
		事務管理費	31,934
		設備費	19,260
		その他	0
<b>合 計</b>	<b>6,408,479</b>	<b>合 計</b>	<b>1,873,552</b>
		<b>繰越金額</b>	<b>4,534,927</b>

※木蓮会の会計は、4月1日から翌年3月31日までの年度制で行っています。会報印刷には決算報告が間に合わないため平成30年度会計報告は総会にて行います。承認が得られたものを翌年の会報にて報告いたします。平成31年度の会計予算については、会報で提案させていただき、総会で出席者の承認を得て決定したいと思っておりますので、ご了承ください。

## ◆平成31年度予算 (案)

(単位：円)

歳 入		歳 出	
前年度繰越金	5,143,140	事業費	—
同窓会入会金(新入生123名)	2,460,000	会報発行費	250,000
総会参加費	50,000	学生支援	100,000
利息	1,000	活動助成費	300,000
		記念品	500,000
		通信費	300,000
		総会運営費	650,000
		事務費	—
		会議費	30,000
		人件費	400,000
		旅費・日当	300,000
		慶弔費 (退官記念品)	20,000
		事務管理費	50,000
		設備費	150,000
		予備費	5,004,140
<b>合 計</b>	<b>7,654,140</b>	<b>合 計</b>	<b>7,654,140</b>

\*6月の総会で議決後、執行予定です。



# 「図書館だより」

図書館にマスコットキャラクターができました。

名前は「える」といいます。図書館にいるおばけです。本が大好きで、時々学内を散歩し、図書館に来てくれる人を探しています。どうぞよろしくお願ひします。

マスコットキャラクターは図書館サポーターが中心となり、公募・投票により決定しました。決定後は、図書館公式SNSや館内の隠れ「える」として、活躍の場を広めています。今後はグッズの作製計画もあり、皆さまから愛されるキャラクターに成長して欲しいと願うとともに、図書館のブランディングにも寄与することと期待しています。

今年度は「資料宅配サービス」もはじめました。

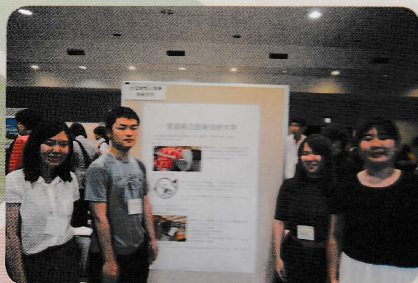
「資料宅配サービス」は、図書館まで足を運ぶことの難しい卒業生や県民、長期休業中に実家等で図書館資料を利用したい学生や教職員のために、送料をご負担いただき自宅まで資料をお送りするサービスです。借出冊数と期間は、通常の借出と同じ5冊2週間です。図書館の資料が必要になった時には、お気軽に図書館までご連絡ください。手続等詳細については、HPでご確認をお願いします。

その他、長野ヒデ子絵本原画展・講演会、香川県立保健医療大学図書館との交換展示会、ビブリオバトル、夏期休業期間の中高校生向け閲覧席開放サービス、大学図書館学生協働交流シンポジウムへの参加、旅行案内コーナーの設置、ブックハンティング等、図書館の魅力向上につながる事業を実施しました。中でも図書館サポーターとの連携した事業は、学生の率直な意見を聞き図書館運営に反映させる貴重な機会として特に大事にしており、今後も継続したいと思っています。

(図書館司書 泉 浩)



マスコットキャラクター「える」



学生協働交流シンポジウムでの  
ポスターセッション発表



長野ヒデ子先生講演会



旅行案内コーナー

## 【学外の方の利用案内】

- 利用時間 平日 9:00～21:00  
土曜日 9:00～17:00
- 図書借出 借出冊数と期間は、5冊2週間です。
- 資料宅配サービス 送料をご負担いただきご自宅に希望の資料をお送りします。
- 電子リソース データベース、電子ジャーナルを利用できます(一部利用できないものもあります)。  
1枚10円でプリントアウトも可能です。  
【利用可能な電子リソース】
  - 医学中央雑誌Web版
  - メディカルオンライン
  - SCIENCE
  - Nursing research
  - The American journal of nursing
  - 最新看護索引Web
  - CINAHL with Fulltext
  - MEDLINE with Fulltext
  - Chronic Illness
- 公衆無線LAN 持ち込み用PCやタブレットでインターネットに接続できます。
- SNS 図書館facebook <https://www.facebook.com/EhimePULib/>  
図書館Twitter <https://twitter.com/EhimePULib>



# ホーム・カミングデー 大学院へのお誘い

全国各地で頑張っておられる卒業生・修了生の皆さん。お元気ですか。今年も、大学院からラブコールを送ります。

本学の大学院保健医療学研究科はこの4月には6期生を迎えます。これまでに看護学専攻15名、医療技術科学専攻8名が修士の学位を取得して修了していきました。入学生の約半数は短期大学・大学の卒業生で、再び砥部の地で共に学んでくれることを嬉しく思っています。

今回は在学生に進学の動機と現在の状況を語ってもらいました。



石川 桂  
看護学専攻  
2017年入学（4期生）



## 夢への第一歩へ

皆様、こんにちは。僕は、大学を卒業後、NICUの看護師として3年間勤務し、医療技術大学の教員になるという夢への第一歩として大学院へ進学しました。現在も病院は違いますが、看護師として勤務しながら大学院に通い、2年間で経過しました。仕事と大学院の両立は、正直大変だと思います。しかし、それ以上に学ぶこと、刺激を受けることは多く、大切な仲間とも出会えます。そして、経験をたくさん積むことができます。休日のことを気にされる方もいると思いますが、休日はもちろんあります。僕は休日になると、時間を作って大好きなバイクに乗って、リフレッシュしています。この前は琵琶湖を一周してきました。

今は8月にある小児看護学会で発表する資料の準備や研究のインタビューが始まるので、インタビューの練習や内容の検討を指導教員の先生方としています。大学院に進学して、何も分からない僕を一から指導していただき、先生方には心から感謝しています。

僕は、自分の時間を使ってでも大学院に行ってみたくと思ったときが、大学院に行くタイミングだと思っています。僕もそのタイミングで進学を決意しました。大学院をスキルアップや夢実現の選択肢として考えてみてはいかがでしょうか。大学院に行ったら後悔はしないと思います。

## 子どもと一緒に学び直し中

医療短大を卒業して17年。短大の頃は、どちらかと言えば不真面目で、勉強よりはバイトと遊びに夢中の生活でした。そんな私が大学院に進学した理由は、看護師としての経験や技術はあるものの、知識が足りない自分に気づき、これからの自分が見えなくなったからです。

大学院に入学してからは、勉強がこんなにも楽しかったのかと、毎回ワクワクしながら授業を受けています。大学院の学習スタイルが私には合っています。授業では一つのテーマを、とにかく深めて学習し幅広い視野から考えていく。そして、授業で学んだことを臨床の場で実践できることに楽しさがあります。理論や概念と言えば難しく聞こえますが、普段していることを根拠に基づき実践することで、自信が付き、発言する視点も変わってきたのを感じています。先生方のサポート的な指導と、共に学ぶ仲間がいることも大学院の魅力です。

私には3人の子どもがいますが、子どもたちと肩を並べて宿題をすることに幸せを感じています。学び続ける姿勢を身をもって伝えることができ、子どもとの距離も近くなった気がします。大学院へ進学し、この1年で仕事や子育てをより大切に考えることができ、今後の目標を見つけることができました。皆さんも思いついてみませんか。



仲田 由美  
看護学専攻  
2018年入学（5期生）



大学院の修了年限は2年ですが、**2年間分の授業料で、仕事を続けながら計画的に最大4年かけることができる長期履修制度**もあります。授業は、標準的には夜間（18時～21時10分）を週1～2回と土曜日を中心です。待ってますよ！（研究科長 中西純子）

## 編集後記

木蓮会会報は、今回で15号発刊となりました。原稿執筆していただいたみなさま、本当にありがとうございました。

今年も、『ホームカミングデー』と同日に木蓮会総会と懇親会を開催する予定です。卒業生・在校生が集える数少ない機会です。おいしいものを食べながら、近況報告するもよし、思い出話を花を咲かせるもよし、楽しいひと時を過ごしていただければ幸いです。（htakahashi）